

「多摩り場 語り場 - 若者が語る未来の多摩市 - 」

発表者 五十嵐大喜 佐々木景輔（梅澤ゼミ 2 年）

1. プロジェクトの目的と概要

多摩市は去年 11 月に市制施行 40 年を迎えた。人間の年齢でいえば中年、人生の折り返し地点といえる。折り返し地点を曲がり、成熟期に入る多摩の街。私たちは、そこに住み、学び、これからの 40 年で中心的役割を果たす若者たちが多摩の未来について「どのような考えを持ち、思いを抱いているのか」ということに興味を持った。多摩市だけではないが、社会全体が高齢化社会への対応に追われ、我々若い世代の考えや思いが伝わりにくくなっている。そこで、若者たちの思いを熱く語ってもらい、大勢の方に聴いていただき思いをとどける場を作りたいと思い、このようなイベントを考えた。今回のイベントで、未来の多摩市を担う若者が思い描く多摩市の未来を市民の方々に発信し、ご意見を頂きながら共に多摩の未来を考える場、同じ思いを持つ若者たちが知り合い、語り合い、つながる場を設ける。そして最終的には、多摩市の地域の活性化につなげるようなきっかけ作りの場にしていく事が目的である

2. これまでの経緯

〔4 月〕昨年 2 月の地域プロジェクト発表祭で「多摩市が市制施行 40 周年を迎える」と聞いたゼミ生から、「未来につながる 40 のプロジェクトをゼミの長期的活動で行おう」というアイデアが出され、各自プロジェクトを考えた。並行して「多摩」について、「多摩市 30 周年記念イベント（繭ドームなど）」について勉強。結果、弁論大会（佐々木案）とプレゼン大会（五十嵐案）の企画を提案した 2 人でプロジェクトを立ち上げ企画を煮詰めることになる。〔5 月〕以前多摩市のイベントでスピーチ大会実行委員をされたことのある望月照彦先生、「多摩大学志論文コンテスト」担当の井川裕人さんから本企画についてのアドバイス、ご指導を頂く。同時に募集要項等具体的に検討。〔6～7 月〕この企画に最もふさわしい会場の検討を始める。パルテノン多摩大通り等単独開催、雲雀祭（＝文化祭）共催等々検討したが今年度開催を断念し、さらに準備に時間をかけて次年度開催へ検討を重ねる。〔9 月〕永山公民館に本企画を検討いただき、永山フェスティバルでの開催可能性をご提案いただき、永山フェスティバルでの開催をお願いする。〔10 月〕企画書のさらなる検討を続け、〔11～1 月〕学内での学生研究発表会(SRC)発表、グリナード永山を管理する新都市センター開発株式会社プロジェクトの内容説明と「永山フェスティバル」での開催のため「つばさ広場」の借用を打診。

3. イベント概要（案）

テーマ：「多摩り場 語り場 - 若者が語る未来の多摩市 - 」

実施予定日：2012 年 9 月に開催される「永山フェスティバル」にて

開催場所：東京都多摩市永山 1-4 グリナード永山 2 階「つばさ広場」（第 1 部）、
永山公民館（第 2 部）

参加資格：多摩市に在住、又は多摩市内の学校に通学している中学生、高校生、大学生

発表内容：「私変える多摩市の未来」と題し、自分が多摩の問題をいかに解決するのか

提案する。

目的：若者たちの考えを多くの人に発信することによって、多摩の未来について多くの方々に考えてもらい、地域活性化をはかるため。

具体的な内容：プログラムは第1部と第2部の2部構成で行う。

〔第1部〕若者たちによるスピーチ

開催場所 グリナード永山2階「つばさ広場」

運営方法 応募者の中から予め選考した中学生、高校生、大学生がスピーチを行う。※選考は、事前に原稿を作成し応募してもらった中から実行委員会で選考する。聴衆の方々には、当日のそれぞれの発表に関しての意見をご記入いただく資料を配布、発表終了後回収。

〔第2部〕グループディスカッション

開催場所 永山公民館

運営方法 第1部で発表者となった方以外の方も含め、提出された内容をもとに予めテーマ毎にグループを作っておく。第1部で発信された内容を基に互いに議論し、話し合われた内容を発表。

目的 第2部では発表した内容について意見交換し、更に内容を煮詰めより発展的なものにするによって、個人の価値観に刺激を与えたい。

今回のイベントは、表彰などは行わない。第1部のスピーチは人数に限りがあるので選考しなければならないが、第2部は応募者に出来るだけ参加していただけるようにする。

また、イベント開催後は、今回の企画に応募時に提出された生徒、学生の資料を取りまとめ、第1部を聞いていただいた聴衆の皆様から回収した資料と、第2部で話し合われた内容を取りまとめ報告書を作成する。

4. 今後の活動について

(1) イベントの告知

2月25日に開催される多摩NPO交流イベント i-café 等で広く呼びかけ、多摩市内の中学校、高校、大学に参加をお願いする。中・高校生については、出来れば夏休みの宿題としてもらえるようお願いしよう。

(2) 開催に向けての具体的な運営方法等の検討、準備

5. このプロジェクトで期待できる成果

多摩市の問題点について、若者の思いを知り、多くの人々が考えるきっかけを作る場になる。このイベントから多くの革新的なアイデアが生まれ、人と人がつながり、未来の多摩市につながっていく可能性を生み出したい。

6. 謝辞

本プロジェクトは、多摩市立教育部永山公民館に多大なるご指導、ご協力をいただいております。新都市センター開発株式会社、多摩市企画政策部、望月照彦先生、片桐徹也先生、職員井川裕人さんに感謝を申し上げます。